

ジオパーク講演会

# 実はすごい、八郷盆地の底力！

～ヤマト政権との関係から江戸を支える諸産業の歴史～

日 時	平成29年12月9日(土) 10:00～12:00
場 所	城南地区公民館
講 師	千葉 隆司氏
参加者	69名

## 筑波山地域ジオパーク講演会

12／9（土）石岡市三村にある城南地区公民館にてジオパーク講演会が行われました。今回のテーマは『八郷盆地』講師に千葉隆司氏（かすみがうら市歴史博物館学芸員・筑波学院大学非常勤講師・茨城大学非常勤講師）を迎え、八郷の歴史と魅力についてお話いただきました。



### ①豊かさとは何か？

人間の目線で見ると豊かさとは、省察に持続的な安定をもたらす要素。この要素は、地域に生きた先人が自然環境を理解して、育んできた生活様式や産業文化から生じるもの。

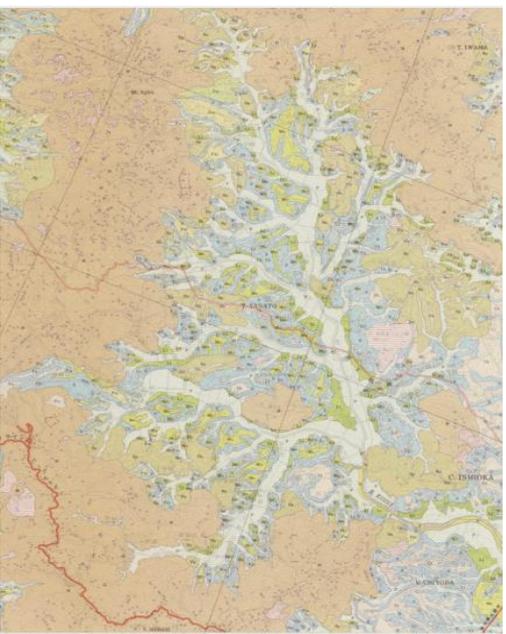
自給自足ができる人間の生活環境

### ②八郷盆地の地形・地質

八郷盆地は、筑波山系の山並みが隆起して出来上がった後、中小河川によって浸食されて出来上がったもの。その地形には、大きく分けて上・中・下3段の段丘がみられる。

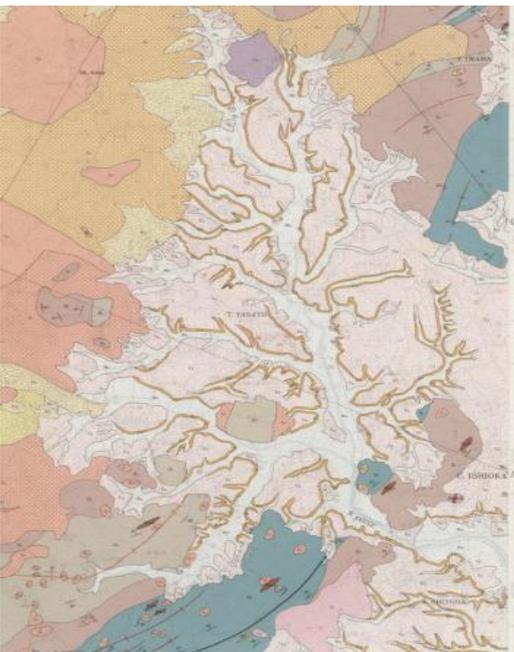
上位段丘（標高50・70m）は、10数万年前またはそれ以前に堆積した浅海や海浜によって運ばれた堆積物からなる。

中位段丘（標高27・45m）は、下末吉改新木と呼ばれる12・13万年前或いはそれ以降の海底、そして閉塞した入江（柿岡湖）をなしていた頃の地層と推定される。下位段丘（標高12・28m）は、恋瀬川がつくった河川段丘と考えられる。



**地形分類図** 八郷盆地は、ほとんどが崖及び斜面の地形で、標高が高いところから丘陵、上位砂礫台地、中位砂礫浸食段丘、下位砂礫浸食段丘群となっている。山際から徐々に中小河川に接する低地向かうという地形的特徴がある。

八郷盆地の地質は、下部から友部層（山地から供給された砂）、美和層・木下層（古東京湾の堆積物）、常総総（中小河川による堆積物）、関東ローム層、黒ボク土などからなる。



**表層地質図** 八郷盆地は、火山灰層（関東ローム層）の台地が中小河川によって刻まれている。

**水が豊富な環境に、肥沃な土壌が生成される**

このような八郷盆地の地形・地質に、当地域の自然環境が生態系を育む。多様な生態系、あらゆる生物の**楽園（ユートピア）**。



### ③ 八郷盆地に権力者誕生！

4世紀後半頃、八郷盆地にヤマト政権の影響を受けたと考えられる権力者が現れ始める。それらの存在は、前方後円墳となつてあらわれ、柿岡地区に集中する。

【丸山1号墳】全長55mの前方後円墳。4世紀後半の築造。

【長堀2号墳】全長46mの前方後円墳。4世紀後半の築造。

【佐自塚古墳】全長58mの前方後円墳。5世紀後半の築造。

古代において、山は稲作に必要な水資源の場所、特に水資源が集まる自然環境の盆地は、稲作に必要な水利をコントロールしやすい場所だった。

稲作こそが古代において富を得られ、権力や支配力につながる重要な産業と考えられていた。

安定した米どころとなる八郷盆地にヤマト政権の稲作新技术が入ることとなった。



【柿岡地区】複数の小河川が恋瀬川に合流する地域。旱天となれば水不足、豪雨の場合は氾濫のおそれが在る地域であるが、水をコントロールすれば安定した米どころとなる地域。ここにヤマト政権の技術と手法が入る。

## ④ 国富を支える八郷盆地の生産力と交通網

### 【八郷盆地の生産体制】

八郷盆地は、古代において5つの郷が展開していたところ。他地域に比べ、人口密度が高かった。

この背景にあるのが、土地の生産力。

産業興隆も八郷盆地の特性で

・窯業（焼き物・瓦など）・製鉄業・石材業・織物業・林業など多数。

### 生産物

### 生産技術による生産性向上

### 生産体制の充実

### 人口増加

八郷盆地のたくさんの生産物は、その後、国府へ運ばれ利用される。米は租税や役人の給与等へ、窯業や製鉄業の原材料や製品は生活物資・農耕具・建造物の資材へ、綿や養蚕による織物業は衣服や生活物資へ。

全国有数の人口密度が高かった常陸国府を支えていたのが**八郷盆地の生産物**だった。



さらに**交通網の発展**が、**流通**・**経済**を生み出し、八郷盆地内に確たる生産体制が整えられていった。

筑波山系の山並みには、国府と各郡を結ぶ道、峠越えの道が古くから整備された。

常陸国府は、八郷盆地との地理的環境を重視し、整備された。

【板敷峠】 国府と大神駅として下野国へ

【湯袋峠】 国府と白壁（真壁）郡そして新治郡へ

【不動峠】 国府と筑波郡、那賀郡方面から筑波郡へ

ここに古墳時代から引き継がれる恋瀬川水系の水運網もあり、人の交流や物流が発展していった。

## ⑤人々の精神も支える八郷盆地の宗教空間

### 山は、生産物の根源

生命を育む水は山から沢へ、沢から川へ、川から海へ

山への願いと感謝…

山を神や仏とする精神文化



山に寺社の設置―里にも寺社の設置

多くの宗教者が八郷の山々に神と仏を感じ、寺社を設けた。



吉生地区から見る西光院



菖蒲沢の薬師堂

### 【筑波山を拠点にした徳一】

峰寺として広く知られる西光院は、平安時代初期・大同2年(807)有名な徳一大師の開山と伝えられ、はじめ法相宗でしたが鎌倉時代に一時真言宗となり、のち天台宗に改宗しました。

本堂は本県では類例のない懸造りで県の文化財(建造物)に指定されており、廻廊からの眺めはすばらしく関東の清水寺の名に恥じないものです。菖蒲沢の薬師様(筑波山四面薬師の東面)、十三塚の山寺(筑波山四面薬師の北面)も徳一上人の開山とされます。

【念仏による教えを説いた親鸞】大覚寺は、「大覚寺縁起略記」によると、後鳥羽院の皇子、正懐親王が比叡山で出家し、周観大覚と称して東国を行脚していた折、板敷山の南麓の当地に草庵を結び、阿弥陀如来を安置して「大覚阿弥陀堂」としたことに始まるとされています。その後、親鸞聖人が越後国から常陸国に渡られた折、布教の拠点とされた稲田御坊をたずねて門弟の契りを結び、善性房鸞英と称して親鸞聖人の布教活動を支えたとされています。このほか、板敷山は「親鸞聖人法難の地」としても全国的に知られています。また、親鸞ゆかりの寺として柿岡には、霞ヶ浦から引揚げられた阿弥陀如来像を安置したとされる如来寺があります。



板敷峠近くの大覚寺



霞ヶ浦の草庵の如来寺

八郷盆地には、多くの寺社がある。それも多くの人々が、山に神や仏を感じ、信じ、設けられたもの。

日の出・日の入り、多くの恵みをもたらし、様々な生命を育む山。

常に山の神と仏に見守られる盆地に展開してきた精神文化が生まれた。

## ⑥ 八郷盆地も一役担った江戸文化の発展

江戸に幕府が開かれ、江戸は世界有数の人口密度が高い都市となる。

ここに大消費地への仕組みが誕生する。そして物資の流通システムが構築されていった。

八郷盆地の山根53か村から**農業生産物(米・麦・大豆など)**と**薪炭及び林業の展開**が、江戸文化の一端を支える。

恋瀬川水系の河岸の発達。上流から高友・浦須・片野根小屋・川又・半田などの河岸による物資の流通。



## ⑦ まとめ

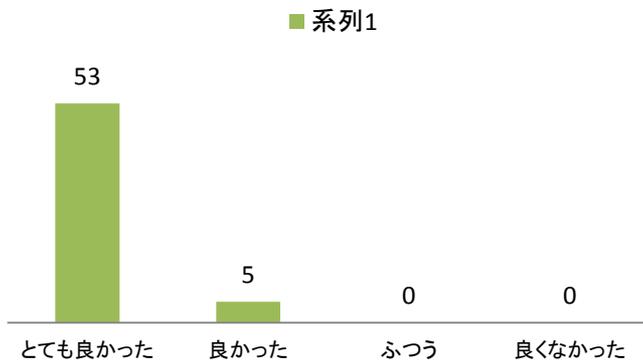
### 【歴史にみる八郷盆地】

- ① あらゆる農産物や自然素材を活かした軽工業製品などからの生産力が高い地域。
- ② 産業により多くの人々が集住する地域
- ③ これらの土地力が権力者（リーダー）を誕生させ、土地力を保持し続ける努力があった地域
- ④ 人々の精神面を支える咽喉文化の形成と寺社の造営が展開してきた地域
- ⑤ この特性が、常陸国府や江戸文化も支える力へ

八郷盆地は安定した人間生活をおくるところ。  
歴史が証明する土地力が高く、人間のよりどころを持つ空間

## 受講者アンケート結果

### 講演の内容はいかがでしたか？



多くの方に好評価いただきました！  
より良い地域づくりのきっかけをジ  
オパークと共に考えよう！